

図1 ムーニースコーチタイム( $t_5$ )

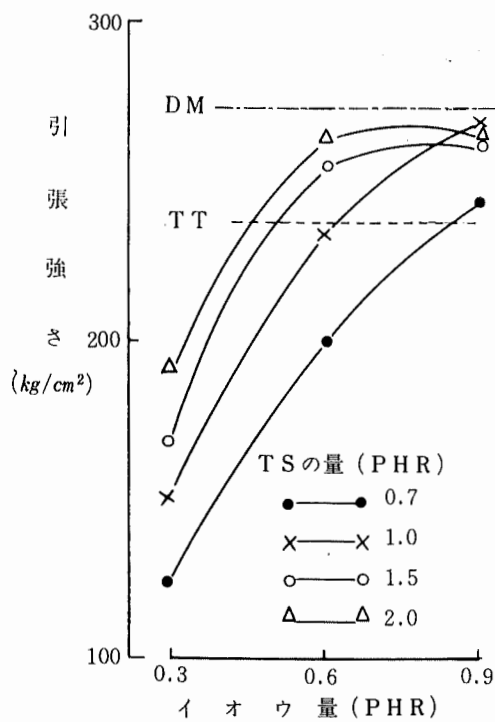


図3.引張強さ・40分加硫

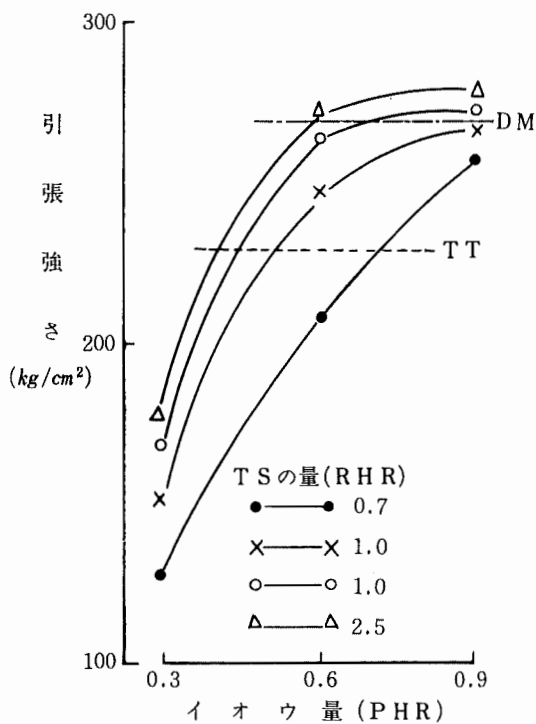


図2.引張強さ・20分加硫

れからスコーチタイムは TS よりもイオウにより左右されるといえる。またイオウ量が 0.6 PHR 以下になると TT よりもスコーチの危険性は少なくなっている。

### 2.2 加硫試験

実験条件: JIS K 6301-1962 に準拠

プレス加硫温度: 140°C 試験機: テンシロン

試験片: JIS 3 号ダンベル 測定時室温: 23±1°C

#### 2.2.1 引張強サ (図2, 図3)

イオウと TS の量が共に増加すると引張強サも増大する傾向を示めしている。

イオウ量が、0.6~0.9 PHR, TS 量が 1.5~2.0 PHR になると TT 加硫をしのぎ DM 加硫に匹敵する引張強サを与えている。

40分加硫と20分加硫を比較してもあまり差はなく TS の低イオウ配合の引張強サは加硫時間によりあまり変化していないことがわかる。

### 参考文献

- 1) 2) NOC 誌31号 p. 13~48・32号 p. 21~45  
NOC 技術ノート No. 58, 59・No. 64~72
- 3) NOC 誌 6号 p. 5~20・15号 p. 5~8  
NOC 技術ノート No. 54, 55

大内新興化学工業株式会社